



避難所である中学校との合同訓練



広島県三原市中之町下町内会「防災会」
会長 竹原 茂

1 地域の特性

私たちの三原市中之町下町内会は、市街地から車で2～3分の北東部に位置し、上・中・下の3つの町内会と二つの住宅自治会の1,835世帯、7,697人で構成されている自治組織の中に在る町内会（830世帯、1,900人の内、80歳以上が330人）です。地形的には、過去に河川が氾濫し甚大な被害を出した二級河川和久原川及びその兩岸に急峻な山地がある狭隘な地域に位置し、その殆どが土砂災害警戒区域であり、土砂災害特別警戒区域内に住宅が密集している地域です。

2 組織の概要

平成17年度から自主防災組織の立ち上げ準備を行い、平成19年4月から活動を行っています。構成人員は、町内会加盟世帯435世帯、町内執行部役員21名、ブロック役員が6ブロック50名に防災会役員48名（一部町内会執行部役員兼務）で、町内会執行部役員、体育部、衛生防災部、福祉女性部、児童部、老人クラブ、民生委員、消防団と

防災会で構成されています。

活動内容は、2月中之町合同和久原川一斉清掃、4月瀧宮神社春祭り児童部神輿渡御、5月町内運動会、7月児童部お楽しみ会（町民も参加）、8月中之町合同慰霊祭・盆踊り、10月市民体育大会・敬老会、10月～12月防災訓練、11月歩け歩け大会、12月一人暮らし高齢者おせち配り等多くの行事で町内の親睦を図っています。

3 活動の特徴

当初、消火訓練、避難訓練、炊き出し訓練等行っていたが、高齢化が進む中、災害が起きた時に「避難行動要支援者」への対応が十分行えない状況に直面し、避難所である三原市立第二中学校の力を借りることが必要であると考え、中学校との合同防災訓練を行うことにより中学生に防災（自助・共助）の必要性等を理解して貰い、その中から災害時には町内会と共に行動し「避難行動要支援者」への支援をお願いしました。初年度（平成23年度）は全校生徒を対象に広島経済大学松井教授とそのゼミの生徒による「防災から減災へ、自助から



地域住民との合同炊き出し訓練



中之町下町内会の防災活動



ダンボールによる宿泊居住場所作り



ロープワーク等体験

共助へ」という題でミュージカル形式で、2年目からは現学校長の教え子で神奈川大学奥田准教授と共に、防災訓練に教育的要素を加え、1年生は「自助」、2年生は「共助」、3年生は「公助」をテーマに学年毎に課題を与え自分たちで考え、行動する事を主題として訓練を行っています。

内容としては、HUG（避難所運営ゲーム）、広島県が行った自主防災活性化プロジェクトに於いて作成した「地域ハザードマップ」の説明と町歩きにも中学生が参加し積極的に意見交換をしました。今年度は「防災キャンプ2015 in 二中」の名の下に地域・中学生・保護者・関係団体職員と三原市（危機管理課、消防本部、水道部）の協力の下一泊二日の宿泊体験を避難所である体育館で行いました。事前に渡した非常持出品チェックリストにより各自で必要と思われる装備で18時に避難し、連合自治会で災害時に於ける「防災協力協定書」を締結しているスーパーから提供のダンボールにより自分の宿泊居住場所作りから始まり、三原市水道部から二中に設置してある応急給水所の説明を受け、災害時には近くの給水タンクから直接給水されることを周知・理解し、訓練で使用しました。

夜は、講座Ⅰ「より快適な避難所運営について」参加者で意見を出し合い、持出品

についての反省や提案、自分たちがどうすればより快適な避難所に来れるのかといった事を話し合いました。朝6時に起床し、ラジオ体操後、講座Ⅱ「三原市消防本部職員によるロープワーク、AEDを用いた心肺蘇生法、簡易担架作り」を体験、講座Ⅲ「クロスロードゲーム」を行いました。食事は、1日目の夕食は市から配給される乾パンとペットボトルの水、2日目の朝食は「防災協力協定」を結んでいるスーパーからおにぎりとお茶の提供を受け、昼食は町内会の女性部によるアルファ化米と豚汁を体験しました。

このような活動が評価され、平成27年2月に「第19回防災まちづくり大賞」で、消防庁長官賞を受賞しました。

4 今後の展望

町内会に於いて地域防災リーダーの育成と多くの町内会行事に防災活動を連結させ、より幅広い防災活動を行い高齢者に於いても「誰かが助けてくれる」という意識ではなく、「自分には何が出来るか」という「自助」を徹底すると共に、中学生が地域防災リーダーとして参画出来るよう市に働きかけを行い、将来地域の防災リーダーとして率先して活動してくれることを望んでいます。